

共用品推進機構だより 2016年04月01日(01)

目次

(1) 共用品推進機構関連記事

▽「情報アクセシビリティへの挑戦

伝えよう!『困ったこと』伝えよう!『良かったこと』/森川 美和」

(2) 賛助会員ニュース

▽「猫の気まぐれロボで体験/タカラトミー」

▽「日本の高齢者 産業廃棄物か天の恵みか/BBC ニュース」

(3) 各種催しとお知らせ

▽「第22回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展

『バリアフリー2016』開催のお知らせ」

(4) 製品関連記事

▽「車椅子でマー جان/アルバン」

▽「寝過ごし防ぐイヤホン/キングジム」

▽「スピーカーで難聴者と対話/ユニバーサル・サウンドデザイン」

▽「難聴者向け骨伝導補聴器/コクレア (Cochlear)」

(5) 新刊紹介

▽『障害者福祉論』

▽『自閉症スペクトラム 異なるレンズで世界を見る』

▽『よくわかる障害者福祉 第6版』

▽『障害者福祉の世界 第5版』

(1) 共用品推進機構関連記事

▼「情報アクセシビリティへの挑戦

伝えよう！『困ったこと』伝えよう！『良かったこと』／森川 美和

製品の情報やアクセシビリティを向上させる方法は主に2つ。「困ったことを伝える」と「良かったことを伝える」。前者は今ある不便さの解消につながり、後者はゼロの状態をプラスに変えていける。振動する体温計、ライトが点滅する時計、簡単な筆談器具、字幕などはそれらの成果。また、製品の情報がいつ必要かという、製品を購入する前、購入するとき、製品を購入した後の3つくらいの場面。その時に、サービス提供側が、聴覚障害者への対応のノウハウや、してほしいと思っていることを知っていれば問題はなくなる。

そういった環境を作っていくためにも、皆さんの思いを発信していくことが大切になる。そのやりとりを蓄積していくことで、情報アクセシビリティはどんどん向上していく。今便利だと思うものは昔、誰かが伝えた結果。そして今の発言が今後、技術の発展と共に反映されていく。私たちは、その意見を集め、体系的にまとめ整理し、必要な場所にお配りしている。

(季刊みみ 2016年3月第151号より抜粋)

(2) 賛助会員ニュース

▼「猫の気まぐれロボで体験／タカラトミー」

タカラトミーが4月末に発売する猫型ロボット「Hello!Woonyan(ハロー！ウ～ニャン)」は、気まぐれで自由奔放な動作が特徴だ。放っておくとどこかへ行ってしまうたり、あくびをして寝てしまったり。まるで本物の猫を飼っているような、癒やしの体験ができる。

スイッチを入れると、「ニャ～ン」と鳴き声を上げながら、4本足で伸びをして尻尾を振る。前進や後退だけでなく、身体をくねらせてじゃれたり、飛びかかったりするなど自由に動く。目と顔にはセンサーを搭載し、ボールを近づけると追いかけて、ほおや耳をなでると喜ぶ。音声による指示や、コントローラーで操作するロボットとは違い、スキンシップを楽しめるように工夫している。

USBケーブルによる充電式で対象年齢は6歳以上。大きさは横幅が17.5センチ

チメートル、高さが24センチメートル。玩具専門店や百貨店、ネットなどで販売する。

(日経産業新聞 3月29日15面より抜粋)

▼「日本の高齢者 産業廃棄物か天の恵みか／BBC ニュース」

* BBC ニュースで株式会社高齢社が紹介されました。

高齢社の創設者・上田研二さんは日本の労働人口の縮小を解決するカギは、高齢者や女性、外国人、ロボットにあると講習会で聞いた。そこで「日本のシルバー人材を活用できる会社を始めたんです」と、現在の代表取締役の幸山明雄さんは話す。

「定年になった時、趣味だとか旅だとかやりたいって一時は思うんですけども、1年とか1年半すると、元気なのにこれでいいのかなって、私も含めて思うんですよ。そんな時に声をかけられて入ってくる人が多いですね」
幸山さんが入った人材会社「高齢社」は、定年退職してなお働きたいという人たちの会社だ。

詳細は以下のサイトをご覧ください。

<http://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-35909804>

英語記事 Japan's retirees: industrial waste or a silver lining?

<http://www.bbc.com/news/35859885>

(3) 各種催しとお知らせ

▼「第22回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展

『バリアフリー2016』開催のお知らせ」

22回目の開催を迎える、西日本最大級の介護・福祉の総合展「バリアフリー2016」、高齢者医療に焦点を当てた唯一の専門展「慢性期医療展2016」に加え、今回初めて「看護未来展2016」を開催。看護職へ向けた看護用品や関連サービスの最新情報を発信する。

会期：2016年4月21日(木)～23日(土) 10:00～17:00

会場：インテックス大阪

〒559-0034 大阪市住之江区南港北 1-5-102

入場料：無料（入場者登録制・当日会場での登録

またはインターネットによる事前登録）

主催：社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 ・ テレビ大阪

問い合わせ

バリアフリー展／慢性期医療展／看護未来展事務局

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 1-2-15

(株)テレビ大阪エクスプロ内

TEL：06-6944-9913

FAX：06-6944-9912

E-mail：infobf2016@tvoe.co.jp

(4) 製品関連記事

▼「車椅子でマー جان／アルバン」

車椅子利用者も快適にゲームを楽しめる多目的な手打ちマー جان卓「泉（いずみ）」。

主に介護施設向けに開発した。四本の脚をそれぞれテーブルの隅から離すことで間口が広くなり、車椅子利用者がどこに座っても、テーブルの脚に体が当たりにくくなり、快適にマー ジャンを楽しむことができる。

テーブルの四隅に円形のサイドテーブルを一体化。このサイドテーブルには太さ 1.5 センチの手すりを付け、つかまり立ちをしやすくした。手すりが付いたことで、サイドテーブルに置いた飲み物に手がぶつかることも少なくなる。

(日経 MJ 3 月 30 日 12 面より抜粋)

▼「寝過ごし防ぐイヤホン／キングジム」

電車やバスで通勤・通学していて、下車する駅をうっかり寝過ごししてしまった人も少なくないはず。そんなときに便利なのが、振動によって時間を知らせる新感覚イヤホン「めざましイヤホン」。

左右のイヤホンそれぞれに振動モーターを内蔵、これにより耳の中でイヤ

ホンが振動し、周囲に音を漏らすことなく目覚められる。動作は、起きたい時刻を設定できる「アラーム機能」と、起きたい時間を「何分後」と設定できる「タイマー機能」から選べる。振動の強さは3段階。電源には単4形アルカリ乾電池1本を使用。キングジムが4月22日に発売する。

(日経MJ 3月30日16面より抜粋)

▼「スピーカーで難聴者と対話／ユニバーサル・サウンドデザイン」

話者の方が歩み寄ることで難聴者の「聞こえ」を改善したい。こんな発想でユニバーサル・サウンドデザインが開発したスピーカーが全国の役所や銀行などに設置されている。話者の音声の明瞭さを高めて聞き取りやすくするのが特徴で、丸みのあるスタイリッシュな外観も好評だ。

コミュニケーションはマイクとスピーカー、アンプで構成するシステムだ。基本的に対面形式で使い、話者がマイクを通じて話すと、難聴者側に向けたスピーカーから聞き取りやすくなった音が聞こえる仕組み。ハニカム（蜂の巣）構造のアルミニウム製振動板などを取り付けたスピーカーは難聴者が聞き取りにくい高音域をサポートし、音のひずみをなくして明瞭に伝わるようにする。

(日経産業新聞 3月30日19面より抜粋)

▼「難聴者向け骨伝導補聴器／コクレア (Cochlear)」

人工内耳製造大手で、オーストラリアのシドニーに本拠を置くコクレア (Cochlear) は米食品医薬品局 (FDA) の認可を受けて、骨伝導補聴器「バハ5 スーパーパワー (Baha 5 Super Power)」を今夏にも米国で販売する。外耳や中耳の障害による伝音性難聴と内耳や聴覚神経の障害による感音性難聴を併せ持つ「混合性難聴」の子供と大人向けに設計している。

本製品は最高65デシベルまでの感音性難聴に対応できる。ブルートゥースで米アップルの「iPhone」や「iPad」などの端末、テレビなどの音源機器から音を直接、耳に届けることができる。従来の頭蓋骨を振動させて音を伝える骨伝導補聴器などは音声信号処理などが十分ではなかったという。

www.cochlear.com/us

(日経産業新聞海外ニューフェイス 4月1日15面より抜粋)

▼『障害者福祉論』

「障害」を取り巻く複雑な法や制度を、統計や図表を交えてわかりやすく解説する。社会福祉士養成課程における障害者福祉の内容を含むだけでなく、事例を用いることで、問題をより身近に理解できるように編成。

編著：杉本敏夫（すぎもと・としお） 柿木志津江（かきぎ・しずえ）

発行：ミネルヴァ書房

本体価格：2400 円（税別）

ISBN：978-4-623-07496-9

▼『自閉症スペクトラム 異なるレンズで世界を見る』

ほかの同年代の子どもとは違った見方をする、自閉症スペクトラム障害(ASD)の子どもたちの心の中を覗いてみませんか。ASDの子どもたちの日常を切り取った写真を収録し、その家族の思いなども紹介します。

著：MAKIKO（まきこ）

発行：日本文芸社

本体価格：1800 円（税別）

ISBN：978-4-537-27869-9

▼『よくわかる障害者福祉 第6版』

障害者福祉をめぐるさまざまな問題や課題に焦点をあてて、障害者福祉の現象面だけではなく、障害者福祉の本質を考察するきっかけを提供。どの章、どの項目からでも読めるように、問題・課題を中心に構成する。

編：小澤温（おざわ・あつし）

発行：ミネルヴァ書房

本体価格：2200 円（税別）

ISBN：978-4-623-07644-4

▼『障害者福祉の世界 第5版』

障害とは何か、障害をもつとはどのようなことか。障害者福祉の理念・制度・援助方法などを体系的・総合的に学ぶ入門書。「障がい者制度改革」による法改正や、障害者差別解消法の概要など、最新の情報を盛り込んだ第5版。

著：佐藤久夫（さとう・ひさお）小澤温（おざわ・あつし）

発行：有斐閣

本体価格：2100 円（税別）

ISBN：978-4-641-22069-0

（編集後記）

本日 4 月 1 日、ISO（国際標準化機構）から国際規格として ISO 19028「触知案内図の情報内容、形状及び表示方法」が発行されました。この規格については、審議中にドイツから強い反対意見が出て、その調整に苦慮しました。専門家による国際会議（ワーキンググループ会議）は、他の規格案を作成したときは 2 回の開催でしたが、この規格については 3 回行うことになってしまいました。そのため、この規格の発行は同時期に提案した他の規格より遅れました。

これで TC173（福祉用具専門委員会）/SC7（アクセシブルデザイン分科委員会）に提案していた 6 つの規格案が全て国際規格として発行されたことになり、今後新たに提案する案件を準備していくことになります。

（松岡光一）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>